

## 創立 132 周年を記念して

わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。

ヨハネの手紙 I 4 章 19 節

静岡英和女学院中学校・高等学校

校長 大橋 邦一

132 年前、神様はカナダ人宣教師 M.J.カニングハム (Martha.Janet.Cuningham、1856-1916 年) に良き志を与え、この西草深に静岡県初の女子教育のための「静岡女学校」が設立されました。生徒 16 人、日本人教師 3 人、初代校長カニングハム先生のわずか 20 名で始まった小さな学校でした。

その後、幼稚園や小学校が併設されましたが大正時代には閉園、閉校となり、戦前はキリスト教教育が禁止され、戦争中は静岡大空襲によって校舎は焼失しました。戦後、学制改革で「静岡英和女学院中学校・高等学校」となり、高度経済成長と共に生徒も増加しました。しかしバブル経済崩壊後、生徒数は減少し始めました。

そして、今、世界は地球温暖化による気候変動と災害、特に日本は人口減少と少子高齢社会という課題と向き合い、AI (人工知能) の時代を迎えています。

こうした歴史の中で、英和で続けられているのが礼拝です。讃美歌を歌い、『聖書』に耳を傾け続けています。そうして英和は「愛と奉仕」の精神で女子教育を続けています。それは未来がどんな時代、どんな社会であっても、変わらない神様の愛が英和生を励まし、慰め、互いに愛し合う人へと成長させて下さり、これからも英和生が現代世界の課題と向き合い、共に担い、隣人となると信じているからです。

先月 30 日、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんが逝去され、神様のもとへ旅立たれました。緒方さんは国家中心の安全保障ではなく、紛争や貧困など、あらゆる脅威から人々の生存や尊厳を守る「人間の安全保障」を訴え、行動しました。神様の愛は人種、宗教、国境を越えて、互いに愛し合う道へと導かれます。

これからも英和生は神様の愛に育まれ、未来の困難な課題に向き合い、愛と奉仕の道を歩んでいきます。